第9回のご意見への対応

資料10-3

第9回ウランと環境懇話会でいただいたご意見等への回答について



第9回ウランと環境懇話会のご意見等への対応について

●施設設置の経緯

ご意見

◆転換や濃縮の工場が人形峠になぜできたのか。山の中ではなく、便利な場所の方が良かったのではないか

回答

人形峠への施設立地は、ウラン鉱床が発見され、採鉱等を行った地ということだけでなく、地域の雇用確保や経済効果を期待する地元自治体の意向と、原子力開発を推進する国の方針が背景にあったものと考えられます。

昭和47年頃の人形峠事業所では、ウラン鉱床の探査、採鉱、製錬に関する業務が終息しつつあり、閉山も視野に入れた検討が行われていました。

一方、旧上齋原村では、ウラン鉱山の開発に伴い一時的に村の人口が増加したものの、その後は都市部への人口流出などにより人口減少が進んでいました。

そのような状況のなか、国は原子力政策を推進するため、ウラン濃縮技術開発に必要となる遠心分離機試験工場の設置を計画していました。

旧上齋原村は、雇用確保や地域振興の活性化を期待して、国及び旧動燃に対して施設誘致を要望し、原子力開発を進める方針と合致した結果、人形峠に試験工場が建設されるに至ったものと考えられます。



旧製錬所



ウラン濃縮パイロットプラント（現 濃縮工学施設全景）

第9回ウランと環境懇話会のご意見等への対応について

●雷対策について

ご意見

◆(懇話会開催日の前日の)山陽新聞に（施設の）雷対策が出来ていないとの記事が掲載されていたが、そのあたりはどの様に考えているのか。

回答

記事は人形峠環境技術センターではなく、内閣府（原子力防災担当）が運営等を行っているオフサイトセンターの雷対策に関するものでした。上齋原にあるオフサイトセンターの雷対策対応が未了であり、数年以内に対応予定として記載されています。

※オフサイトセンター：原子力災害時に行政や地方自治体などの関係機関や専門家が集まり、情報共有や緊急対応の調整、指揮をするための施設。

人形峠環境技術センター内では、雷対策として各建築物及び電気設備には避雷設備（避雷針、避雷器、架空地線等）を設置しております。

直撃雷対策の一例



避雷針



架空地線

雷サージ※対策の一例



避雷器



SPD（サージ防護デバイス）

※雷サージ：落雷した場所の周辺に、一時的に発生する異常な過電圧、過電流のこと。